

を制止して全癒せらるゝこと多し。斯る場合に外科手術を行ひ若くは灌漑法によりて治療を講ずるは（後者は一時の慰安を與ふるに過ぎず）本器を使用して加答兒を治療し根本的に聾の快復を圖るに如かざるにこと萬々なり。「加答兒」の章を参照せらるべし。

藥劑中毒。—**ス篤里規尼涅**（ストリキニン）中毒若くは故意將た偶然に嚙下せる腐蝕性の藥劑中毒に際しては**オキシバサー**（Oxybacter）を使用すべからず。猶豫なく醫師を聘し解毒藥（デトキカク）を服用すべし。「モルヒネ」中毒に際しては本器は大効を有す、斯かる場合には二時間乃至五時間、若くは危険終はるまで**大力**の全身療法を行ふべし。足首の圓盤上に熱濕布を使用して發汗を促がすべし。

耳痛。—時としては齒患に伴ふことありと雖も頭若くは耳腔内の感冒に起因すること遙かに多し。耳に一圓盤を附着し強力を使用し且つ熱濕布を以て之を覆ふべし。頭側の全面を覆ひ且つ頤下を包むに足るべき大形の濕布を使用すべし。而して治療中

は温湯中に足部を浸すべし。組織内に加答兒を催せる場合は「慢性病」に準じて治療すべし。

眼病。—眼球の急性焮衝、虹彩炎、眼瞼皮痂若くは顆粒其他の局部焮衝に對しては、**中力**を使用し一圓盤を温濕布（熱濕布は不可）に包みて眼球上に使用し、一日一二回宛とし十分以上治療すべからず、而して眼球と之れに接する圓盤とを分離すべき部分の濕布は厚さ、**一吋以下**なるべからず。眼球焮衝は概して斯法により直ちに輕減せらる。其他の眼病にありては眼球の上方なる額、**額顛**（コウカク）、後頭部に治療を行ふと同時に全身療法を講ずべし。

視力の減退は視神經の麻痺若くは萎縮に起因すること多く、眼科専門醫と雖も了解に苦む場合あり、以上視神經の衰頹は主として酒精若くは煙草の濫用、特種の腦病等に基づくを以て眞因を矯正すべき療法にあらざれば全然無効なり。

癩疔。—本病に侵されたる側の**手首**に本器の一圓盤を附着し三四時間毎に一回づ

、治療し(必要なれば更に回数を増す)、其際二十分間該手を温湯中に浸すべし。

遊走腎。—腎臓の微動する場合を算入せば本病は全く普遍的の疾患なり。文明國の全婦人中の一割乃至二割は本病に罹り、而して緊縮せる束帯が其主因たること疑ひなし。腎臓の動搖激しきときは遊走腎と稱せられ其壓迫を近隣の器官に及ぼして多數の腹腔病、多少の疼痛、腸の故障、心悸動、神經性頭痛及び劇症消化不良を惹起すること多し。時としては右側の肋骨下に手を置きて遊走腎を感知し得べし。

輕微なる遊走腎即ち該器官の位置に變更少くしてしかも多大の苦痛を惹起せる場合に、本器を使用せば好結果を奏すべし。猶豫なく緊縮せる束帯を廢すると共に患者は各種の活潑なる運動を避くべし。數週間就床するを可とす。一日二三回二三十分間宛強力にて本器を使用し一圓盤に熱濕布を覆ひて背部の腎臓面及び患部に附着し、時々變更して肝臓及び腹腔に移すべし、而して便秘を伴へる場合は特に後者に施すべし、治療終はる毎に施療せる表面に寒濕布を使用し若くは寒水にて拭ひ然る後手拭にて摩

擦すべし。右療法は衰弱且つ貧血せる局部に血液を供給し全身の活氣を回復するに有効なるべし(「局部器官療法」を参照せらるべし)。「慢性病」に記載せる如く強力の全身療法を施行すべし。多くの場合に於ては前記の方法のみにて本病を治癒するに充分なるべく、二三ヶ月間忠實に治療を繼續すべし。

腎臓轉位著大なるときは老練なる外科醫に諮るべし。外科手術は眞に最後の手段として依頼すべきのみ。

甲狀腺腫。—本病は頸部甲狀腺の腫張を來し、極めて急激なる脈搏、眼球突出、衰弱、不眠症、貧血症等を伴ふこと多く、且つ婦人にありては月經作用に故障を來す場合少なからず。日々二回宛にて三十分間、腫脹せる頸部に一圓盤を附着し熱濕布を用ひて強力の治療を行ふべし。時々頸部の局所療法を中止し寒水洗淨及び按摩を行ひて淋巴管の作用を回復せしむべし。日々三十分間同法にて肝臓と腸及び脊髓の下部に局部治療を行ふべく月經不順にありては特に後者に施すべし。同時に「慢性病」に準

じ本器を使用して全身療法を行ふべし。難症甲状腺腫にして數月内に本器によりて全癒せられたるもの多し。右の療法にて根治せざる場合なきにあらずと雖も多大の慰安は期して待つべきなり。

膽石。—本病は肝臓及び膽加答兒に起因し、加答兒の粘液が、肝臓より排下せられたる「膽砂」と稱する粒狀堆積物の四周に附着し化學的變化によりて堅殻を形成し漸次に厚大となりて膽石を構成す。この加答兒は過食、運動不足、便秘若くは緊縮せる束帯に歸因す。膽石は婦人に最も多く男子に四倍す。硬水の飲用も亦本病の一因たるべし。其形に大差あり小は砂利より(其場合は數百あるべし)、大は鵝鳥の卵に比すべきものあり。

オキシバシ—療法の大目的は本病形成の原因を阻止するにあり。これを實行せんと欲せば加答兒狀態(存在せるときは)、を除去せざるべからず。一圓盤若くは兩圓盤に熱濕布を覆ひて肝臓上に附着し強力[○]の局部療法を行ひ、且つ一日二三回三十分間宛腹

部に治療を變更すべし。また「慢性病」に準じ弱力若くは中力にて全身療法を行ひ、且つ「局部器官療法」の條下に記載せる如く施行すべし。同時に深呼吸を行ひて肝臓の働きを回復し、且つ純軟水を充分に飲用して肝臓及び輸膽管を清洗しまた便秘を制止すべし便秘は本病に伴ふを常とす。果物及び野菜を食用せば膽石病を恢復するに有効なるべし。

輸膽管に堆積せる膽石を除去するには膽囊上に兩圓盤を附着し熱濕布を覆ひ大力にて治療すべし。以上の場合には右肋骨の下端より右肩胛骨に亘る背部激痛及び惱痛(時々)によりて明かなり。一時間使用三十分休養の割合にて交互治療を行ふべし。右療法は緊縮せる筋肉を緩和し膽石を腸内に逐入せしむること多し。阿列布油其他各種の藥劑は決して膽石に達せざるを以て、溶劑としては全然無効なり。然れども、少量の阿列布油を使用して便秘を慰安するは可なり。

結石。—結石即ち膀胱内の結石には三種あり。(一)尿酸鹽性、尿の酸性若くは痛風

質と關聯す。(二) 磷酸鹽性、磷酸鹽石灰より成立し、慢性消化不良に伴ふこと多し。(三) 磷酸鹽性、慢性膀胱炎に起因し不斷の敗尿に伴はる。以上の堆積物は元來皆血液の酸化不完全なるによる。「慢性病」及び「局部器官療法」に準じて本器を使用し其根本を斷つべし。この不當なる傾向を體外に驅除すべき確法は一にして嚴正に療法を行ひ痛風質、消化不良若くは加答兒を除去するにあり。膀胱より大なる結石を除去するには膀胱結石摘出術を要す。

枯草熱。—本病は痲衝性の加答兒にして眼、鼻及び氣道を犯し且つ夏季に特有なり。概して遺傳性にしてまた特種の草花粉中に含まるゝ、病毒のために増大せらる。強力にて本器を使用し額、鼻の側面及び胸腔の上部に各十分乃至十五分づゝ、圓盤を附着し熱濕布を覆ひて、一日一二回宛治療を行ふべし。また加答兒の傾向を防止するため「局部器官療法」に準じて使用すべし。上記の治法に加ふるに毎夜三四時間強力^〇の全身療法を疾病期中繼續すべし。枯草熱の攻撃を免れんと欲せば患者は豫定の再發

期に先だち數期間全身療法を行はるべし。

頭痛。—頭痛は血液將た神經系に於ける故障の微候なり。腦髓の脈管に斷へず流入する血液の容量に大變動を生ずるにかゝらず、頭蓋は堅固にして殆んど其内容を變更するの餘地なきを以て多數頭痛の主因とす、大氣中の電氣性變化、消化不良、卵巢炎、月經不順、齒患、眼病、心臟及び腎臟病、膽汁病將た便秘等は頭痛の眞因にして就中便秘を第一とす。有害なる空氣を呼吸せば頭痛に罹ること殆んど疑ひなし。各種の熱病及び脊髓痲衝は、血液中に病毒若くは有毒物を混するが故に、頭痛を誘致すべし。頭痛は痲麻質斯及び痛風に伴ふこと極めて多し。オキシバサーにて頭痛を治療する場合は先づ原因を發見すべし。體質の敗壞に基因せざる殆んど各種の頭痛は圓盤に熱濕布を覆ひて本病の根源——脊椎、胃、肝臟若くは腸部——に附着し、中力乃至強力にて二三十分乃至一時間局部療法を行は、直ちに制止し得べし。直腸充滿せる場合は灌腸を行ふべし。足部を温め飲食物に注意し、特に便秘を警戒すべし。

凡ての頭痛薬及び磷、砒素、臭化物、鹽素、モルヒネ、實留攝美亞謨、安知歇貌林、安知比林、醋酸基亞尼里度及びフェナセチンの如き各種の劇薬を廢棄すべし、以上の薬品は一時的にして疾病の根源に達せざるを以てなり。

心臟病。—多數の心臟病は單に機能的、即ち胃、肝臟若くは腸の如き他の器官不調の反動に基因す。脈搏、感覺及び聽診等によりて病態を精査し、疾病機能的なるときは其原因を探求しこれを治療すべし。「消化不良」「便秘」及び「局部器官療法」に概説せる諸法を行はば多數の心臟不調を矯正し得べし。

心臟の實質病は、其心筋たるを瓣膜たるに論なくオキシバサーを以て全癒する能はず。周到なる生活法、各種の身勞、煩悶若くは激昂を忌避し且つ茶、珈琲、酒精飲料及び煙草を全廢し平靜且つ適度の生活を營まば心臟實質病患者も長命を保ち得べし。

口腔若くは鼻腔の出血。—概して血管の病的状態に基因す。出血は胃又は肺に發することあり。或は單に口若くは鼻孔よりする場合あり。肺出血の疑ひある場合

—真紅の血液によりて明かなり—には患者を安臥せしめ少しく頭部を高くすべし。

足部に熱湯囊を置き足首に一圓盤を附着し熱濕布を以て覆ふべし。十五分間胸部に寒(氷)濕布を附着して後これを除去し、然る後一圓盤に熱濕布を覆ひて十五分間肩胛骨間なる脊柱上に使用すべし。出血止まるまで強力若くは大力にて上記の如く交互に胸部の寒濕布と背部の熱濕布とを使用すべし。胃出血に對しては—暗黒色の血液によりて明かなり—胃に寒濕布を施し患者に少量の氷塊を與へ半時間交互的に(半時間使用半時間休止)手首と足首に圓盤を附着し強力の治療を行ふべし。以上の如き出血に際しては常に患者を安靜ならしめ且つ兩脚を温むべし。

吃逆—横隔膜の痙攣性緊縮に起因し概して消化不良と密接の關係を有し。鳩尾上に一圓盤若くは兩圓盤を附着し熱濕布を覆ひ強力乃至大力を使用すべし。同時に首根なる脊髓上に寒濕布のみを使用して横隔膜に通ずる横隔膜神経の作用を遮斷すべし。

腎臟結石。—その形成は膽石と全然同一物に基因す。其存在は小背部以下膀胱及

び股に亘れる疼痛によりて認めらるべく、放尿困難にして且つ尿中に沈澱物若くは血液混入す。腎臓結石を防止せんと欲せば膽石の章を研究せらるべし。現今最も自然的且つ有効なる腎臓結石防止法はオキシバサーを使用し血液を酸化し其有毒物及び餘分の尿酸を排泄し且つ加答兒状態を除去するにあり。腎臓結石を逐出するには前節に説明せる方法に従ひ大力にて小背部に治療を行ふべし。斯かる場合は本器を使用せる後にあらざれば決して外科手術を受くべからず。

脊髄勞。—本病は脊髄の前部神経根の硬化及び萎縮にして患部の知覺神經減殺せらるゝに至る。脊髄麻痺と同様の治療を行ふべし。本器によりて一大慰安を得しもの頗る多く全癒せられし場合も決して少なからず。「大人用脊髄治療盤」は本病の治療に最も適當なり。

莫爾比涅即ち阿片習癖—慢性病に準じて弱力の治療を行ひ、且つ習癖を制壓するに至るまで治療及び休養の兩期間とも徐々に藥劑を減少すべし。オキシバサーは

神經を強壯ならしめ意志を補助して、遂に恐るべき習癖を脱却せしむ。而して此憐むべき藥劑狂を出せしものは蠻的なる藥劑制度にあらずや。なほ「局部器官療法」中に記載せる諸法を忠實に履行せらるべし。

耳下腺炎。—本病は一種の焮衝にして微菌病毒に起因し顎下腺腫を伴ふ。一日二三回宛にて卅分間焮衝の局部に一圓盤を附着し熱濕布を用ひ強力にて本器を使用し、且つ腫脹及び疼痛悉く消失するまで朝夕二三時間宛中力の全身療法を行ふべし。斯の如く敏活に治療を行はば本病は直ちに制止せられ且つ卵巢炎若くは睪丸炎——本病を閑却せば斯る疾病を惹起し患者を危篤ならしむることあり——の憂なかるべし。怠慢のために以上の器官に焮衝を生せし場合も圓盤に熱濕布を覆ひて焮衝の箇所を數回局部療法を行はば敏速に斯病を治癒し得べし。

癩病。—本病は病的なる某々穀物の食用に基因するもの、如く、胃、咽喉及び口腔に膿潰状態を惹起し手先、前腕、足首及び脚部に疼痛將た鱗狀變化を伴ふに至り動

もすれば盲目並びに發狂を醸すの虞あり。足首及び手首に圓盤を附着し中力にて本器を使用する事一二時間の後足首の圓盤に熱濕布を覆ひ三十分間治療すべし。日々二回、十時を隔て、上記の療法を行ひ圓盤を他方の足首及び手首に移すべし。また日々一時間宛にて、脊髓、肝臓、脾臓及び直腸上に局部療法を行ひ、患者の堪へ得る限り温熱なる濕布を使用すべし。治療一句に亘れる後一週間休養して再び開始し、數期間使用し多大の恢復を得るに至れば漸次に治療を短縮して全癒を圖るべし。癩病に本器を使用し驚嘆すべき全癒を遂げし實例少なからず。患者の體力に應じて治療に多少の變更を行ふべし。

睡眠病。—本病はマラリア熱と類似し微生物の血液中に侵入するに始まる。マラリア病原並びに其他の病芽を撲滅すべき本器の効力を確認せる以上、本病がオキシバサーによりて治癒せらるべしとなすは不當にあらざるなり。亞非利加に住し最も不可思議なる本病を精査するの機會を有すべきオキシバサー賛助者は本器によりて血液酸

化法の効果を實驗せられんことを切望す。

破傷風。—發見し能ふ限りは、傷口上に一圓盤を附着して熱濕布を覆ひ、他の一圓盤は濕布に最も遠き足首若くは手首に當て、大力を使用すべし。傷口發見せられざる場合は足首及び手首に治療を行ひ、足首の圓盤上に熱濕布を覆ひて發汗を促すべし、二時間使用し二時間休止すべし。小兒患者にありては使用時間を半減すべし。激烈なる發作制止せらるゝ迄該法を繼續して後「敗血膿毒症」と同一療法を採用せらるべし。

齒痛。—概して不傳導珥瑯質の破壊後に於ける感覺鋭敏なる齒芽の内部露出、若くは焮衝將た病的なる神經根に起因す。單純なる齒痛は患部に圓盤を附着し熱濕布を覆ひ強力を使用せば全癒せらるゝこと少なからず。

潰瘍、放膿性腫物、火傷及び凍傷。—焮衝點の近隣に局部療法を行ひ一圓盤若くは兩圓盤に温濕布將た熱濕布(患者の感覺に應じ)を覆ひて附着し、強力にて本

器を使用すべし。潰瘍性疾病に際してはこれと同時に「慢性病」及び「局部器官療法」に準じて治療を行ひ血液を清淨し其活氣を回復せしむべし。潰瘍將た腫物は隔日に、「カスチリヤ」石鹼及び滴水せる海綿若くは布を以て洗滌すべく、放膿多き場合は日々これを行ふべし。治療の際先づ膿を排出すべき孔を穿てる一片の油絹布を潰瘍若くは腫物に當てリント又はガーゼにてこれを蔽ひ縛帶すべし。リントを除去する場合には豫め純水を以て充分に濕潤せしむべし。オキシバサー療法を行はば潰瘍將た腫物も敏速に治癒せらるべし。潰瘍を全癒するには身體の休養最も必要にして、脚部の潰瘍に於て特に然り。

種痘中毒。—本病は種痘に起因す。而して種痘とは病獸の排泄物、膿汁若くは病毒を人類の血液中に注入するの謂なるを以て往々にして中毒症狀を呈する事あり、斯法は又破傷風及び最も恐るべき敗血症を醸すこと多し、斯る場合には「敗血膿毒症」に準じ治療せらるべし。

第二十四 「慢性病」及び一般衰弱に基因せる

各種の疾病

持久的なる「慢性病」を矯正且つ治癒するには多大の時日を要すべし。以上の場合には病症の根底深くして患部の器官若くは組織に多少の構造的變化を伴ふを常とす。斯かる體質上の變化を矯正すべき最良法は、オキシバサーを足首及び手首に使用し中力乃至弱力によりて徐々に身體を酸化せしむるにあり。急遽全癒を求むれば却つて不結果を來すべし、蓋し生活上の燃焼を激増せば、過激なる機能を生じ斯くて脆弱なる組織を害すべければなり。多くの場合に於ては血液中の有毒物を除去するまでには數期に亘る治療を要すべしと雖も、終には時間と盡力に酬ひて餘りある好結果を收得すべきは疑ひを容れず。本器を使用し慢性病を治療すべき補助指針として左に數法を掲ぐべし。斯法は各種慢性病治療の基本たり。數回治療を試行し患者は直ちに自己に最も適

當なる方法を發見せらるべし。

附 オキシパサーを調節して患者に適應せしむる法

(必ず「概括的指針」及び「反動と休養」なる兩章を精讀せらるべし)

第一法。―活力旺盛なる人士は、華氏五十度乃至五十五度の力にて毎夜五時間以上七時間以内の治療を行ひ、十日若くは二十日の後、該日數の一半を休養に充つべし。

第二法。―活力普通なる人士は、華氏五十度乃至六十五度の力にて、毎夜四五時間治療を行ひ十日若くは二週間の後、同一日數だけ休養すべし。

第三法。―活力羸弱なる人士は、華氏五十五度より七十度までの力にて四五時間宛、一週乃至一旬間治療を行ひ、然る後同一日數の休養をなすべし。

第四法。―活力極めて羸弱なる人士は、華氏六十度乃至七十度の力にて午後二時

間と晩二時間宛、苦痛なくして堪へ得る限り數回治療を行ひ、然る後治療日數と同一の期間休養すべし。

第五法。―虛弱甚だしくして第四法の治療を行ふ能はざる人士は、約華氏七十度の力にて、一日三回三十分乃至一時間宛、二三十日間治療を行ひ、然る後少くとも二十日間の休養をなすべし。

注意―患者が極めて治療に刺戟せられ易き場合は力を非常に弱め、且つ必要に應じ使用時間を十五分程に短縮すべし。治療を反復するに従ひ患者は徐々にこれを強むるも不快を感ぜざるに至るべし。

オキシパサー原理を會得し且つ其治療法に精通せざる限り、如何なる場合と雖も本章に指定せる以上の強力を使用し若くは休養せずして治療を過度に行ひこれを濫用すべからず。必ず充分なる時間を與へて反動を來さしめざるべからず。患者が多量の慰安を感ずれば猶豫なく繼續的療法を廢止しこれに代ふるに一週一二回の治療を行ひて

強壯上の効果を收むべし。全快若くは殆んど平癒を感じるに至れば治療を全廢するを最も良とする。

痲衝、疼痛若くは大衰弱を伴へる場合は必ず熱濕布を加へて局所療法を行ふべし。指定せる場合は必ず熱濕布を加へて局部器官療法を行ひ不活動なる器官を鼓舞すべし。各種の慢性病治療にオキシバサーを使用するに當り患者は往々不快の徴候を感ずべし、开は血液酸化法に基づける變質作用に惹起せらる。活力極めて羸弱なる人士、若くは麻酔劑、興奮劑等を服用して心臟衰弱せるものにおいては特に然り。第一回の治療後既に斯かる不快の徴候を感ずることあるべし。本器の使用と共に精力及び知覺神經末端の覺醒を生ずるを以て、多少激烈なる不快感を伴ふべしと雖もこは元來本器に惹起せらるゝにあらずして従前より存せる有毒物の排泄に基因す。斯かる場合に患者は弱力を使用し徐々にこれを増大すべし、然らば不快の徴候も遂に全滅するに至るべし。

患者はオキシバサーを使用して慢性病を治療するに當り、同時にあらゆる疾患を矯正しつゝあることを記憶せらるべし、其性質全然不明なるも敢て問ふ所にあらざるなり。斯かる場合には最近に蒙れる疾病先づ全癒し、經過期最も長きものは最後に矯正せらるべし。

第二十五 局部器官療法

凡ての疾病は種類の如何に論なく、脾、肝、腎臟、胃腸の如き重要な器官若くは腺の機能不全を伴へり。以上の器官の一部將た全部は疾病の原因若くは結果として幾分これに關係すべし。以上の理由に基づき一疾病を治療するに當り右の器官上に熱濕布を覆ひて局所治療を併用するを得策とす。こは熱病の如き急性病の快癒期に利用して特効あり。

患者は以上の器官中何れが最も影響を蒙れるかを確知せざることあるべしと雖も、

敢て意とするに足らず、全器官を治療するを可とすこれ全般に益を受くべきが故なり。臓器は互に極めて密接の關係を有するを以て一器官を益すべき療法はまた其の他を補正すべし、故に以上の一器官が衰弱、休止若くは充血せりと思惟せらるゝ場合は常に左記の如く本器を使用すべし。

適當なる分量の氷水中に分極器を浸し一圓盤に充分なる大きさの熱濕布を行ひ（患者の體質強壯なる時は兩圓盤）、必要に應じて一日一二回二三十分間宛以上の一器官、例へば肝臓を治療すべし。斯の如く肝臓を治療せば該器官の機能を鼓舞し、胆汁の流通を促進し、便通を補正し、消化を助け且つ門靜脈より肝臓を通じて肝臓動脈に注入する血液を清淨するに有効なるべし。翌日は同様に、赤血球の發源と思惟せらるゝ腺、即ち脾臓を治療すべし。脾臓を治療するには脊の左側なる肋骨の直下に於てするを最も宜しとす。そは多數の疾病に際して大影響を與へ、マラリア若くは瘡及び腸室扶斯に於て特に甚だし。

第三日は消化及び排泄の兩作用に關係ある腸を治療すべし。斯法は血液中の毒瓦斯を除去し且つ腦髓及び神経系に顯著なる効驗あるべし。

第四日は凡ての活力の源たる胃を治療し、第五日には腎臓を矯正し、斯の如くにして全器官に及ぶべし。

疾病に關する特種の指導中に「局部器官療法」を掲ぐると然らざるとを問はず、全癒に至らざる場合若くは健康標準以下なる場合は必ず斯法を利用すべし。微恙にして特種の病態現はれざる時も亦これを使用すべし。斯の如くせば體内に侵入する虞ある多數の疾病を豫防し得べし。

○オキシパシー附記

一 オキシパサーを使用すべき時機

一 オキシパサーを使用すべき時機

健全なる人士は充分なる酸素を吸収しつゝあるを以て、オキシパサーを使用し更に多量の酸素を攝取すべからず。健全なる際は肺より吸入する純粹新鮮なる空氣中に混和せる酸素のみにて身體の代謝作用を行ふに充分なり。體内に餘分の酸素を攝取せば自然の設定せる調和を障害し燃焼の増加も其効なかるべし、故に健全なる時は本器を使用すべからず。罹病、不例、疲勞、衰弱若くは不眠の時のみ本器を使用し、且つ快癒に向ひ將た爽快を感じるに至らば直ちにその使用を中止すべし。健全なる際は身體の機能成規に進捗し且つ自然と互に一致せること明かなり、故に自然に改革を加へんと企つべからず。

疾病に罹らば本器を使用し且つ能ふ限り敏活にこれを行ふべし。開始早きに比例して全快も亦迅速なるべし。生活器官を襲ふべき急激なる焔衝性疾病にありては種類の如何に論なく一刻を徒消せず直ちに本器を使用せば焔衝及び熱病を制壓するに最も妙にして多年の經驗上絶対に信頼すべきことを立證し得たり。

激烈なる急性病に際し災厄を免れんと欲せば體内に攝取せらるべき酸素の量を増加するを要す、疾病の原因たる微生物若くは有毒物を撲滅し、必ず病源に直接作用を及ぼすべし、こは科學の立證する所にして争を容れず。故に活力衰退し抵抗力を失ひ且つ疾病が事實上身體を廢頽せざるに先だち成る可く早く發病當時にオキシパサーを利用すべし。急劇なる熱病の最終期に於ても本器の有効なるは論を俟たずと雖も、初期將た相當なる時機にして深甚なる慢性病若くは全身衰弱を併發せざるに當り本器を使用せば酸素の効力及び血液の復活によりて完全且つ敏速に平癒すべし。オキシパサーは無數の疾病及び最難症に際し着々其効を收め來れり。

疾病に犯されたる時のみ本器を使用すべく決して常時に爾すべからず。愈々之を利用するに當りては病性並に其輕重に應じ治療すべく、且つ充分に自然法を重じ適當なる手當、食物其他の治療手段を講ず可く以て疾病の經過を最も嚴密に監視せざる可らず、如何なる場合と雖も疾病の不穩なる時に於ては必ず診斷を明確にせざる可らず、而

して恢復の曉は之が使用を中止すべし。又微恙毎に之を使用すべからず、然らざれば本器の感應に慣るゝの餘り愈々必要の場合に際し敏活に効驗を收め難きに至るべし。

二 オキシパサーを管理して常に有効

ならしむる法

本器を整調して何時にても使用し得べき工夫を運らすは最も緊要なり。元來分極器は殆んど不滅なり。そは概して生涯磨滅將た無効に歸することなかるべし。唯だ線紐及び治療圓盤は往々にして不調を來すことあり。

治療圓盤一名接觸圓盤は純アルミニウム製にして使用の際は清潔且つ煌々たるを要す。身體の酸類は徐々に圓盤を腐蝕すべく該物質を除去せざれば絶縁を來しその結果として本器の作用を阻害將た遮斷するに至るべし。「アンモニア」又は金屬磨粉を使用して腐蝕物を除去し且つ圓盤を煌々たらしむべし。使用の度毎に布片を以て圓盤を磨

くべし。

圓盤に附屬せる綿褥を屢時煮沸して清潔ならしむると共に常識に照して必要と認めれば時々取換ふべし。綿褥缺乏の場合は海綿、若くは染料を含まざる布片等を用ふるも可なり。治療を開始するに當りては必ず注意して綿褥を充分に濕潤せしむべし。熱湯最も可なり。綿褥窩（圓盤の裏面なる凹所）もまた清淨ならしむるを要す。

線紐は、數條の銅細線より成る。一般の使用法に於て以上の線紐は絶へず圓盤に連絡せる小帽形の螺旋上にて前後に屈曲せられつゝある以つて遂に折斷するに至るべし。時としては分極器との連結點折斷することありと雖も極めて稀なり。分極器を取上ぐるに線紐を以てせず手先を用ひ以て線紐を保存するに努むべし。使用終らばオキシパサーを乾布にて拭ひ完全なる箇所に保管し必要の際容易に發見し得るやう工夫すべし。治療終る毎に分極器に線紐を巻き附くるを要せず。永久に本器を片附くるまでは緩かに纏ふを得策とす。線紐を分極器に巻附くる場合は一定の方向に纏ふべし然ら

二 オキシパサーを管理して常に有効ならしむる法

ざればこれを折斷するの虞あり。周到なる注意を加へて線紐を完全ならしむる限りオキシバサーは疾病の家庭に侵入せる際必ず無限の効果を顯はすべし。注意をだに加ふれば線紐は永く存続すべし。

折斷せる線紐を再嵌する法。—小帽形の螺旋を除去して結び目を解くべし、線紐の外包を脱すれば容易に破損の箇所を發見し得べし。同所に於ける破片全部を截除すべし。然る後外包を引上げて銅線半吋を露出せしむべし。それより結び目を作り、絶縁物も之に加へ、接觸圓盤に再嵌すべし。外包を引き反し完全に接觸せしむるやう針線を露出することを忘るべからず。數ヶ月本器を使用せざりし場合は再び使用するに先だち帽形の螺旋を除去して線紐の末端を精査すべく、治療圓盤との接觸點に缺陷を發見せば、該末端を截除し上記の如く再嵌すべし。

線紐折斷することなく且つ分極器と接觸圓盤との連絡密接にして圓盤清潔且つ煌々たる限り本器は秩序整然として充分なる効力を有す。接觸は特に簡單ならしめられ

ば一般人士は容易にこれを了解し如何なる缺陷をも矯正し得べし。線紐を再嵌するに不充分なりと思惟せらるゝ人士は本器の販賣者を訪問して、精査と修繕とを依頼し、若くは矯正の必要ある際は本商會に直送せらるべし。新規に取代ふべき部分なき限りは、無料にて器械を修繕すべし。斯かる場合は費用を費さざる前に豫め所有主に通知すべく所有者は往復の運賃を負担せらるべし。

本器が「無効」なる如く思惟せらるゝ場合も接觸を完全ならしむれば直ちに復活すべきことを記憶せらるべし。常に本器を整調して使用に支障なからしむれば必ず疾病と戦ひこれを制壓するに極めて有効なるべきは疑ひを容れず。又線紐の外包破損し銅線露出する事あらば直ちに之を十分に蔽ひ修繕する事を要す。

三 酸 素

酸素は自然の原素中最も豊富にして分布の區域最も廣大なり。窒素と機械的に混合

して、緩和の目的を成就し、純粹なる大氣の五分の一を構成す。酸素は水の九分の八を形成し且つ凡ての事物の一半を組成せり。各種の動物組織及び液體の主要分は酸素なり。人體の約四分の三も亦酸素なり。そは無色、無味且つ無臭にして、零下四百度に於て氷結し、且つ大壓力と寒氣とを以てせば液體となすを得べし。電光の作用によりてオゾン化成すべくそは酸素に比し五割大の密度を有す、換言せば三層の酸素は二層のオゾンを形成す。オゾンは特有の臭氣によりて認識せらるべくダイナモの近隣若くは激烈なる放電的暴風に際して知覺し得べし。深林及び海濱の空中には少量のオゾン自然に存在す而して斯かる空氣の人體を強壯ならしむるは幾分かオゾンに負ふ所あるもの、如し。

酸素は凡ての瓦斯元素中最も陰性にして純粹なる時は最も旺盛なる和合力を顯はす、酸素以外に六十九原素あり。而して酸素はフロリン以外の各素と和合すと云ふにあらずや。酸素は呼吸の際動植物によりて多量に吸收せらる、然れども日光の力によ

りて綠葉より吐出せらる、酸素のためにこの吸収は事實上回收せらるゝものとす。故に光明なる室内（暗黒なる室は然らず）に於ける綠葉は住者の健康に有益なるもの、如し。

酸素は一千七百七十五年、英國の學者、ジョセフ、ブリーストリー氏により發見せられぬ、氏はこれを呼ぶに「酸性なる空氣」を以てせり、この名目たる更に近代の研究に徴せば全然不當なるもの、如し。酸素なる語は、酸類製造者の意にして、不當の名稱たり、蓋し酸化法なるものありとするも酸類の性質は酸素の存在に負ふ所なくして寧ろ水素に歸すべきを以てなり。

酸素は現今最も有力なる防腐兼殺菌劑にして、生活上の燃焼及び健康の維持に至要且つ絶大偉力ある素因たり。

四 オキシパサーにて治癒せざる疾病

四 オキシパサーにて治癒せざる疾病

本器にて治癒せざるべき疾病を列挙するは容易のことたり。蓋し治療上の指針に留意し患者、將た看護者が治療に加ふるに相當常識を以てし、衛生的生活を重んずるに於ては本器により治癒せざる物比較的少數なるべければなり。不當なる空氣中に生活し、暴飲若くは暴食に耽り、飲用水、衣服及び排泄法に關する衛生を無視し、故意將た無識に身體を閑却し、治病の手當を誤り自然を侮辱するの人士は、本器を使用するも、自然的生活を營み健全なる習慣を履行する人士の如く効果を收むる能はざるは論を俟たず。本器は血液を純清にし微生物及び病毒を撲滅すべしと雖も他の有毒物を吸入して此作用を阻害せば本器の効力は全滅に至らずとも大に減少せらるべし。故に本器療法を行ふに當りても其の他の治法を重んじ主治醫の意見に従ふ可く、共に藥物療法を行ふも敢て禁忌に非ず。

元來オキシパサーは體質に大變化を伴ひ若くは實質に甚だしき喪失を來せる疾病をば全癒せざるべし。本器は胃、肝臟若くは腎臟硬變の如く纖維組織及び其結果として神

經及び血管の萎縮を伴へる疾病を全癒せざるべし。斯かる病態出現せるときはその再設は得て望むべからざるを以てなり。本器は肺勞と呼はる、肺結核を全癒せざるべし、斯病は修復すべからざる組織を破壊するの特徵を有す。本器は又坑夫、石工、陶工及び刃物師に特有なる刺戟物の吸入に起因する重症肺病を治癒せざるべし。本器は腦髓其他に深甚なる衰弱的變性を惹起せる癲癇、構造破壊せられたる心臓及び腎臟病の末期、將た微毒患者、飲酒家若くは老人に特有なる動脈硬化を治癒せざるべし。本器はまた先天的の不具若くは畸形を全癒せざるべし。喘息に併發せる悪性肺炎、癌、瘤腫、肉腫、腺腫其他不當の發生物、痔瘻、歇兒尼亞、關節の畸形且つ固定せし關節痲痺質斯、及び老衰病に於ても治癒を確證し難し。

然れども不治として放棄せられし實質病にして本器によりて全癒せることを記憶するは緊要のことたり。單に機能的にして矯正し得べき疾病を誤診し實質病となすこと多し。故に如何なる實質病に罹れる人士も失望すべきにあらず。自然は親切なれば苟くも

一縷の希望あるものを放棄することなし。自然療法の一派たるオキシバサーは到底人爲を以て如何ともする能はざる如き多數の疾病をも全癒せり。各種の麻痺に於ては特に其効果顯著にして最も驚嘆すべき治癒を遂行せり。なほ多數の不治症、慢性病も本器を使用せば全癒すべからずとも多大の軽減を來すべきことを記憶せらるべし。

オキシバサーを常備せば殆んど各種の急病を全治し得べし。本器を以てせば、藥物療法と趣を異にし、疾病の結果を治療せずして、直接に原因を治癒すべし。

五 圓盤下及び其他の箇所を生ずる發疹

オキシバサー療法を行ひつゝある間に接觸圓盤下に發疹を生ずること多し、こは敢て憂ふるに足らず。發疹は有毒物が酸化作用によりて逐出せられつゝあることを表白せる徴候に他ならず。本器を離れて單に熱濕布（酸化性を有す）のみを使用することも

斯かる發疹を生ずることあり。發疹に痛痒を伴ふ場合は少量の香水と共にグリセリン、ワゼリン、阿列布油^{オレフユ}、曹達水、硼砂水、過酸化水素若くは微量の澱粉を使用すべし。同時に治療圓盤を他點に移すべし。オキシバサー療法進捗するに隨ひ發疹は漸次終息すべし。

時としては、治療中に局部若くは全身に激烈なる發疹を催すことあり。こは必ず血液の不潔に起因す。癩癧、濕疹、微毒若くは慢性便秘患者は治療に際して多大の發疹を催すこと多しそは喜ぶべき徴候なり、本器療法に於て以上の有毒物質の排出は避け得べからず。そは本器の純正作用上最良の一徴候と目すべきなり。

六 傳染病消毒法

熱病、虎列刺若くは赤痢の如き傳染流行病の治療中及びその後消毒を行ふは最も肝要のことたり。而して其目的たる病毒を撲滅し同病の傳播を防止するにあり、开は

五 圓盤下及び其他の箇所を生ずる發疹

傳染病毒、病菌、微生物、惡氣、若くは將に腐敗せんとする解體物より發散せる惡臭分子及び瓦斯等なり。

防臭劑を以て室内の惡臭を滅殺し若くは單に防腐劑を以て腐敗的解體を防止するのみにて足れりとせず更に進んで疾病を傳播すべき傳染病毒を全滅するを要す。

流行病若くは傳染病發生せば猶豫なく書籍、書類、玩具、毛氈、裝飾品及び掛物の如き不要具を治療室より除去すべし。窓掛も洗濯すべからざる物なる時は取り去りて其他の物を代用すべし。治病中汚れたる敷布、夜具、着服、手巾、布巾及び手拭等は百分の五の石炭酸水若くは百分の一強度を有せる昇汞水中に浸して分泌物及び排泄物を除去し、然る後洗濯所に送るに先だち半時間煮沸すべし。便通、唾液其他の排泄物は直ちに百分の五の石炭酸水若くは水一ガロンに一封度の割合の漂白粉を加へたる水と混合し、然る後下水道に放棄すべし。屢々用ひらるゝ石灰は新鮮ならざるべからず然らざれば殆んど無効に歸すべし。使用せざる石灰水は周到に密閉して効力を維持せ

しむべし。患者が室扶斯病に罹れる場合は凡ての排泄物を井、水溜若くは水道に遠き地中に埋むべし。

看護人は屢々昇汞溶液(千分の一)若くは百分の五なる石炭酸溶液中に手先を浸して消毒を行ふべし。同溶液はまた患者の身體上の汚點及び病室内にて使用せる器械並びに道具を洗滌するに用ふるを得べし。患者の眼邊には決してこれ等を使用すべからず、唯だ必要の際は稀薄なる硼酸水を代用すべし。

疾病中若くは消毒を終はるまでは室内を掃除すべからず、而して濕布を以て家具を拭ふべし。百分の五なる石炭酸中にて絞れる敷布を病室の入口に吊して遮斷を行ひ且つ絶へず同溶液を以て濕潤せしむべし。治療後各種の襪、寢具、毛氈其他感染の虞ある物は冷水に浸し然る後一時間普通食鹽の飽和溶液中にて煮沸すべく、煮沸によりて損傷せらるべきものは、百分の五なる石炭酸水を充分に包容せしめて後水中に没し濃厚なる石鹼水にて洗淨すべし。洗滌すべからざる物品は能ふ限り窯中の土器に入れ

て一時間乾燥すべし。

治療後硫黄瓦斯を以て室内を消毒すべし。小丸の形に木炭と混合せる硫黄塊を求むるも、硫黄の粉末を買ひ來り同量の木炭と混和するも亦可なり。一千立方尺の空間を消毒するに硫黄三封度を使用すべし。即ち二三升の水を容れたる洗濯桶を室内に備へ、洗濯桶の内面に數個の煉瓦を装置し其上に古き鍋を据ふべし。鍋に數個の燃焼せる石炭を入れ、窓及び煙突の空隙を悉く閉塞し鏈孔全部を充填せる後、硫黄と木炭の混合物を石炭上に放置すべし。室の戸は閉鎖し二十四時間開放すべからず。然る後強度の石鹼水にて床を拭ひ且つ同法にて木製部を清淨し斯くて窓を開き二日間開放すべし。斯くせば日光と純粹なる空氣中の酸素と相俟ちて最も有効なる消毒劑を構成す。壁紙老朽せるときはこれを破り去りて新調すべし。天井を石灰水にて洗淨するは良法たり。通常市の衛生當局者は無料にて病室を消毒せらるべし。彼等が斯事に熟練せるに於ては之を行はしむる方得策なることあり。

慢性病者、熱病患者、將た傳染病者の久しく占居せる室は、患者の轉居後充分に消毒を行はざるべからず。其は僅少の手續將た費用を要するのみなれば決して閉却すべからず。看護者が病毒を傳搬することなきにあらざると雖もこれを全制するは不可能にして唯だ周到の注意を施さば殆んど防遏するを得べし。

流行病若くは傳染病と戦ふべき家庭にありては嚴密に交通遮斷を行ひ、病人の看護に必要缺くべからざるもの、外何人をも出入せしむべからず。斯の如くせば重大なる流行病たらんとする惡疫も直ちに終息せしめ得べし。

七舌

舌の震動は或る神經病特に酒精に起因せる疾病の徵候なり。舌の一方に偏して突出するは卒中若くは舌を支配せる神經の麻痺を表白し、常に患部の方向に偏す。中央褐色にして片部黄色なる舌は腸窒扶斯を指示す。舌苔及び赤色の瘀衝點を有するは猩紅

熱の徴候なり。厚く且つ白色、若くは褐色なる舌苔と裂目とを備ふるものは概して便秘、消化不良將た膽汁病に伴ふ。癌及び胃潰瘍に於ては舌頭概して清潔且つ健全なる色相を有す。扁桃腺炎其他咽喉の焮衝に於ては舌苔厚く、濕潤にしてクリーム色を呈すること多し。神経痛若くは激烈なる齒痛に際しては舌の一面に厚き舌苔を生じ他の一面は清潔なること多し。極めて病癒し若くは重大なる全身衰弱に罹れる人士の口中粘膜及び舌頭は概して白色の小突起物を生ずべし。

八脈搏

健康状態に於ける脈搏の度数は、起座せる際、大人にありて一分間に約七十二回を普通とす。然れども大變動を生ずるありて、六十回より八十回に亘り甚だしきは五十と百との間に介在するに至る。婦人の脈搏率は稍々大なり。嬰兒の脈搏は百二十五乃至百四十にして、一歳の小兒に於ては大約百二十、三歳の兒童にありては概略一百、

十歳の少年に於ては約九十回なり。矮軀の人士は長身の人士よりも脈搏頻繁なり。歩行の際は静座の時よりも其數大にして起坐せる場合は横臥に於けるよりも大なり。横臥せる際は脈搏は静坐に於けるよりも約五少なし。食事の直後には五乃至十多く、且つ温地にありては寒地に於けるよりも遙かに大なり。脈搏の度数は常に入浴によりて高められ且つ熱病状態に際し必ず増大す、安眠の時は其數最も少なし。

脈搏は手首の橈骨動脈、耳の直前なる顛顛動脈、若くは足首の内顆の直下なる踵の内面に於ける脛骨動脈によりて計り得べし。以上の諸點は互に隔離し全身血液の循環を度るに適當なるを以てこれを確知し居るを可とす。

九體温

通常體温は攝氏三十六七度（華氏九十八度九十九度）の間にあり、而して人によりて多少の相違あり、壯者にありても二六時中に殆んど一度の差あるなり、早朝起床前

に最も低く夕暮に最も高し。大食若くは運動の直後、又た極めて濕潤せる大氣中にありては熱病其他の疾患に犯さるゝことなき際と雖も攝氏三十七度五分の體温を呈することあり。麻痺に際し、患部の體温攝氏二十五度に下降することあり。疾病に罹らば體温暫らく攝氏四十三度内外に上昇し若くは攝氏三十二度までも下降することあり、然れども大約四十二度以上又は三十四度以下に至れば生命危篤なり。特種の疾病に於ては高温は其他の場合に比し數等輕微の徵候たることあり。腸窒扶斯に於ては四十度五分は常温なりと雖も、僂麻質斯熱にありては概して三十八度と四十度の中間にあり故に本病に於ては四十度以上の體温は憂ふべきなり。

小兒病に於ては體温を正確なる指針となす能はず。他なしその調温機關は容易に不調を來すべきが故なり。譴責若くは喫驚は一二度小兒の體温を上昇せしむることあり、而して激烈なる鞭撻を以てせば、數時間攝氏三十九度内外に昇騰すべし。小兒の熱病に罹れるが如き場合は以上の事實を念頭に置くべし。衷心より出づる親切だにあ

らば病兒を壯健ならしむるに間然する所なかるべし。

一般熱病にありては患者の快復に比例して體温下降すと雖も、窒扶斯熱及び肺炎の如きものに於ては、病勢變更の直前に上昇すること多し。詳言すれば本病は危機に終はり、これに次ぐに發汗及び體温と呼吸の衰頹を以てす。慢性病は隱然不規律なる體温を伴ふこと多し、糖尿病、腎臟病及び甲状腺病の如き即ちこれなり。

何れの家庭にも正確なる驗温器を常備し熱病の疑ひある場合は舌下若くは腋下に於て十分間驗温を行ふべし。體温三十七度五分以上なるときは猶豫なくオキシパサーを使用して疾病を未然に防止すべし。一部人士は乾燥せる手先若くは裸手を用ひ感覺によりて容易に熱度を探知し得べし。

疾病に際しては時々患者の體温を驗するを可とす、然れども頻繁に之を行ひ患者を苦むるは全然不要のことたり。又友人若くは看護者の配慮過度なるため大害を蒙る患者極めて多し。

十呼吸

健康なる大人の呼吸は一分毎に十八回を普通とす、即ち心臓の鼓動四回に對し約一回の割合なり。心臓の鼓動數増加せば呼吸も之に比例して迅速なるを常とす。然れども特種の藥劑療法に於てはこれと趣を異にす、斯かる服藥によりて神経系統に影響を及ぼし脈搏と呼吸との調和を變化せしむる事往々にして之あり、因に或種の藥劑にありてはオキシパサーの作用と其趣を異にし不自然たるを免れず。

十一病室

患者に最も理想的なる寢床は針金にて織れる發條及び鞏固に蒲團を備へたる一人用の寢臺なり。折重ねたる毛布を蒲團の上に覆ひ且つ能ふべくんば、護謨布を毛布の上に裝置し次に一毛布を以て之を掩ふべし。護謨布は蒲團の汚れを禦ぎ同時に衣服の

下より空氣の浸入すること及び萬一の惡寒を豫防す。

重厚なる寢衣を患者に重ねることなく唯だ愉快を害せざる範圍に止むべし。少年及び嬰兒を覆ふに當りては周到なる注意を加へて遺憾なく新鮮なる空氣を攝取せしむべし。毛布を以て頭を掩はれたために清き空氣を得べからざるに至る小兒多し。必要の際は頭部に夜帽を使用すべし。

溫暖なる日には注意して開放せる窓に蠅除けの屏風を備ふべし。蠅は煩冗なるのみならず病菌及び汚物を傳搬すること多し。

室内の活花に注意すべし。そは直ちに凋衰且つ腐敗し空氣を汚すべき一大原因たるに至るべし。少數の活書を壁間に掲ぐるは極めて低廉にして患者に娛樂を與ふべきを以て忘却すべからず。

病室内には安寧と調和を普及せしむべく、斯かる室内には決して容喙的なる友人を入るべからず。彼等の來訪は、如何に善意的なりとも、必ず患者を煩悶せしめ快癒を

妨碍すべければなり。

又患者の目前に於ては各種の論難を全廢すべし。右の理由に基づきオキシハサーに關しては本器の作用を全く知らざる隣人又た朋友に諮ることなく、使用書に従ひ平靜に治療を進捗せしむべし。無識なる隣人を招待して諮問せば必ず各自に信する處方を推奨しこれが辯護に多言を費し、將た本器を試用せずして他の治法を行はん事を忠告すべし。患者が本器の使用を欲する場合と雖も、中傷若くは治癒力に關する疑念の表白等は動もすれば患者を失望落膽せしめ疾病と奮闘するに堪へざらしむるを以て治療を秘して嫌ふべき干渉を避くるはある場合に於ては肝要の事なり。僞善者及び干渉家を遮斷し自己の識量及び本書の指導を信頼せらるべし。斯の如くせば多大の貴重なる時間を節約し且つ患者の煩悶及び大害を萬一に防止するを得べし。

十二 概略的疾病分類法

本書に於ては特種の疾病に關し説述せる所多し。而して右の種類は發病の形式、激烈の程度、經過、進捗及び一般的性質に基づきて區分せり。引用せる名稱を了解し治療の際狼狽せざるを要す。本器を使用するには疾病の一般的性質及び治療法の實行を知悉せば足る——本療法は普通の療法と其撰を異にし單に徴候を制止するのみならず、疾病を根治す。

急性病とは短期なる疾病の謂なり。本病は突然襲ひ來り暫時にして人命を奪ひ、若くは迅速に平癒に向ひ、將た慢性病に變ずべし。殆んど常に發熱或は疼痛を伴ひ、又は兩者を附隨す。

慢性病とは徐々に襲來し、緩漫に進捗し且つ長期に亘る疾病を云ふ、本病は概して急性病の恢復不完全なる結果にしてまた血液を毒し自然の補正作用を妨碍將た破壊せられしに基因すること多し。

官能病（機能病）とは特種の器官若くは組織の作用不完全なるも發見し得べき範

圍内に於ては其構造に變更を有せざる疾病を意味す、本病は特種の疾病の反動状態たること多し。多様の心臟病は官能病に過ぎず。鬱憂症、類癇、舞踏病の如き神經病及び精神病も亦然り、而して癩癩も時にこれに類することあり。

實質病とは、瘤腫、心臟瓣膜病、肺、肝若くは腎臓の硬變、肺結核等の如く器官將た組織内に構造（實質）上の變更を伴へる病なり。變化微少なる限り多數の實質病はオキンバサー療法によりて矯正せらるべきことを記憶せらるべし。

局所病及び全身病なる名稱は問はずして明かなり、唯だ後者は眞因が何れの器官若くは組織に歸すべきか不明なる疾病を意味すと云ふべく、之を例せば糖尿病、癩癩質斯並びに痛風の如し。

傳染病とは一人より他人に傳搬する疾病の謂なり。患者と接觸せるため壯者に傳はるる時は感染と稱す。しかもこは全く人爲的の分類に他ならず。

以上の疾病は悉く衰憊、不淨、不當若くは不充分なる血液の供給に發源し开は主と

して毒氣の呼吸、過食或は不正の飲食、將た便秘に起因す。而して本器を善用せばこれを矯正して驚嘆すべき成功を博すべし。

十三 注 腸（灌腸）

直腸に於ける便秘に際しては殆んど常に注腸を行ふ方從前發見せられたる下劑、緩下劑若くは通利藥よりも遙かに良好なり。注腸にありては下劑の附隨物とも云ふべき疼痛的痙攣將た搐搦を惹起することなし。加ふるに注腸は瘀衝を緩和し有毒なる排泄物及び異物を洗除するに有効にして、温度正當なるときは血液の循環を均等せしむべし。

注腸に際し温湯を使用すべき時機と冷水を用ふべき場合とを明言するは容易のことにあらず。一般の熱病に際しては冷水の注腸を行ふ方遙かに適當なり。此所に冷水とは華氏五十度乃至七十度の意なり。赤痢、下痢及び虎列刺、若くは出血性排泄、直

腸の大疼痛將た化膿状態等に於ては温湯の注腸を行ふ方概して冷水注腸より遙かに好結果を來すべし、これ前者は更に鎮靜的なればなり。温湯注腸とは攝氏四十度内外の温湯の意なり。常に驗温器に代るに手先を以て驗温を行ふべし。注腸の量は耐力及び必要に應じて適宜調節すべきこと勿論なり。小兒には五乃至八オンスまた大人には一乃至三ポイント宛を以てせば一般の必要に應じ得べし。患者を左側に横臥せしめ臀部を厚き枕の上に擡げ注腸液排出せらるゝまで以上の姿勢を維持するを以て一般に注腸の理想法とす。注腸は患者に比し三四尺の高さなる注腸器の囊より徐々に行ふべく、且つ必要の場合は布巾を當て手先にて強く壓迫して二三分間抑留すべし。

便秘甚だしき時は注腸液に少量の石鹼若くは一杯の蓖麻子油將たグリセリンを加ふべく、化膿及び疼痛を伴へる場合は微量の澱粉を混和すべし。直腸なる蟲下しの目的には食鹽と水を混和せる強度の鹽水を使用すべし。患者自から注腸を行ふ能はざる時は柔軟なる護謨嘴管(ネラトン氏カテーテルの類)を使用するを最も適當とす。剛強な

嘴管は激痛將た大害を醸すべければなり。嘴管に油若くはワセリンを塗附し、導入する場合は徐々に回轉すべし。

然れども注腸は絶対に必要な場合に限り利用すべし。これを常用せば激烈、有毒且つ汚穢なる下劑に比し遙かに無害なりと雖も、腸に當然必要なる運動を奪ひて損害を醸すの虞あり。温湯の注腸はこれを繼續せば、特に不健康にして、徐々に腸を擴張し且つ筋肉の作用を衰弱せしむべし。少量の冷水注腸は強壯劑として有効なりと雖も温湯注腸を長時間繼用せば無力及び衰弱を惹起すべし。注腸は必要の際に行はゞ極めて有効なりと雖もこれが慣用を忌避せざるべからず、而して攝養法に注意し凝固性の食物を廢棄せば此目的を遂行し得べし。

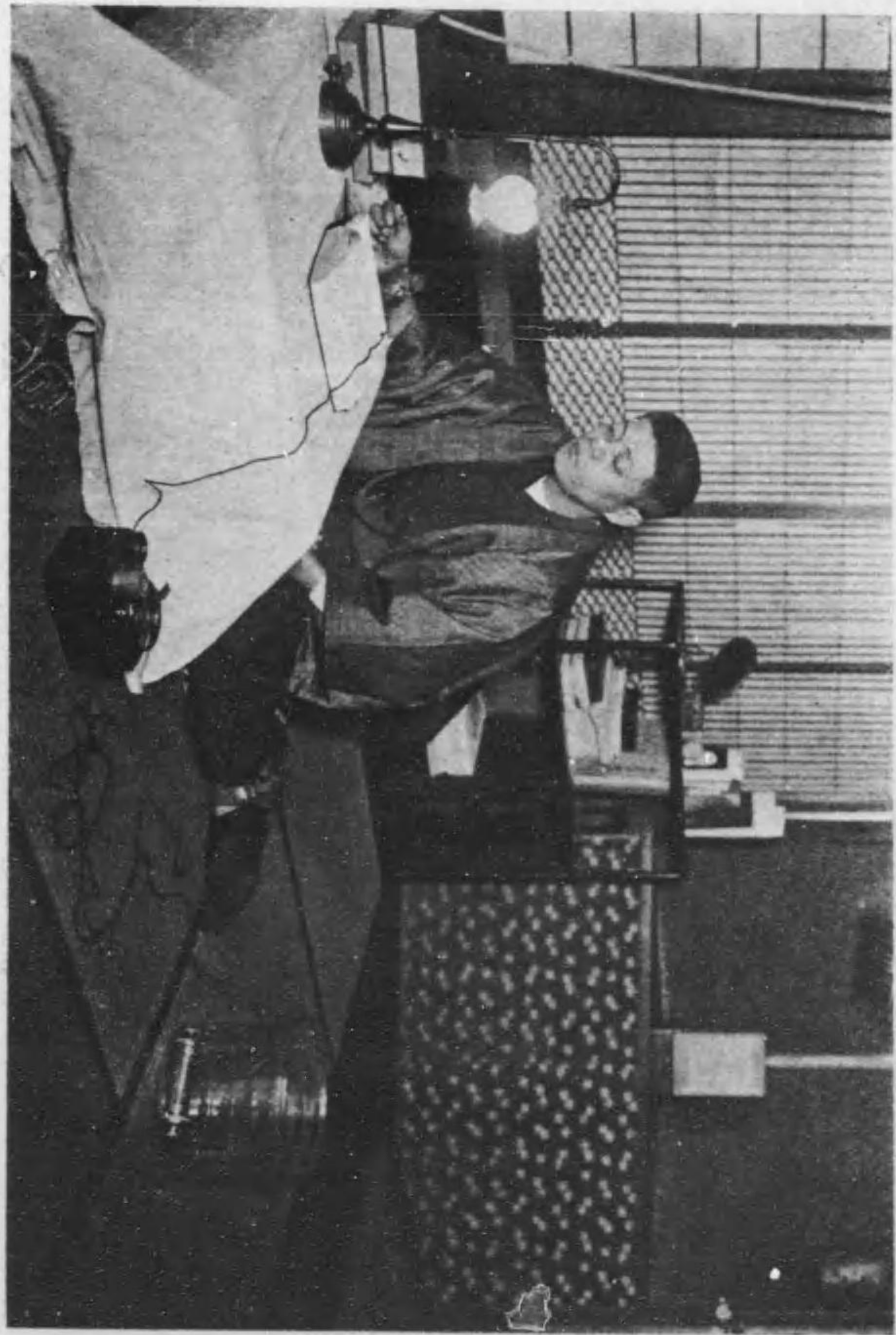
普通に行ふ排便灌腸は時々行ふも可なり。

十四 外科手術後

外科的手術後オキシバサ一療法の中力又は弱力を以て適當に行へば創面の快癒を促

し患者の衰弱を恢復するに甚だ有効なりと雖も、往々にして又手術を受けたる人士は極度の弱力を除き本器療法に堪へ難きことあり、こは骨盤手術を受けし婦人に最も多し。斯かる場合には周到の注意を加へて堪へ得る程度——分極器を華氏七十五度乃至八十度の弱力とし——に療法を調節せば治療の目的を達する事を得む。容易に了解せらるる如く又凡ての疾病の恢復期に本器を用ふるは尤も賢明の應用と云ふ可し。

本器を使用せば腎臓及び皮膚を通じて異物を極度に排泄すること多し。こは毫も憂ふるに足らず。そは本器の純清作用上最良の一徴候たり。



(力弱) 圖の中書讀ら乍し施を療治身全前眼就
期 復 疾 後 病

◎オキシパサー用局部治療盤

普通の場合に於ては本附屬器の必要を認めずと雖も、特殊の局所疾患を有せらるる人士、並に専門醫師諸君の爲めにオキシパサーの効果を層一層顯著ならしめむ目的を以て左記種々の局所治療器を考案せり。こは金屬製にして構造堅牢煌々たる色彩を有し消毒に便に使用に最も恰當なる想案に係り、しかも永久の使用に堪え全癒の効果を減する事なし。(但し各治療盤には各明細なる説明を附す)

- (1)、局所治療盤(一般用) こは種々の局所性疾患に應用せらるべしと雖も殊に
 癩麻質斯、神経痛、盲腸炎、頭痛、打撲傷等の如き局所的疼痛又は敗血膿毒症
 に使用する。(定價金貳圓五十錢)



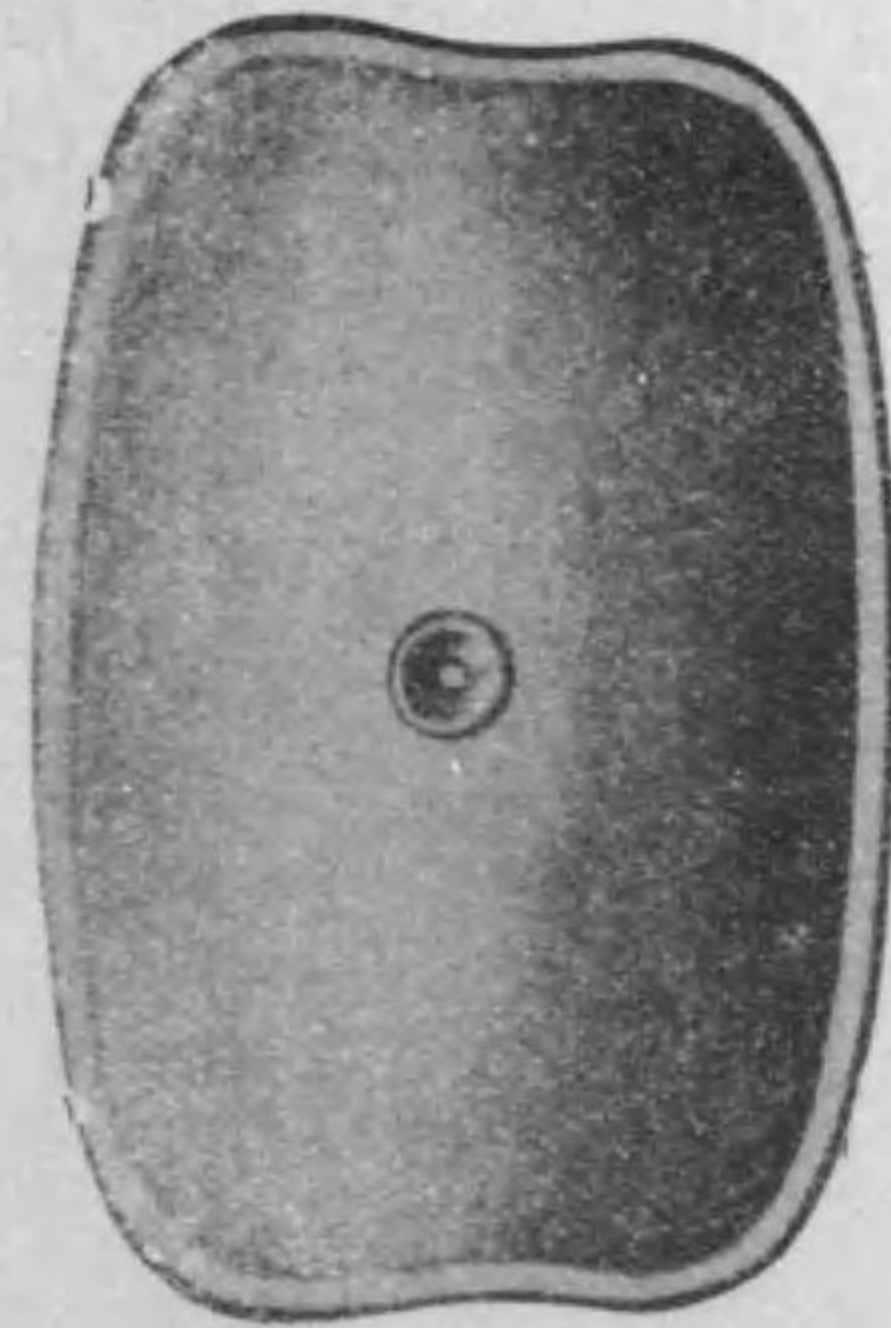
(一) 局所治療盤(一般用)

(2) 大人用脊髄治療盤、特に脊髄諸病、脊髄癆、卒中其他の麻痺症の治療に用ふ。(定價金拾圓)



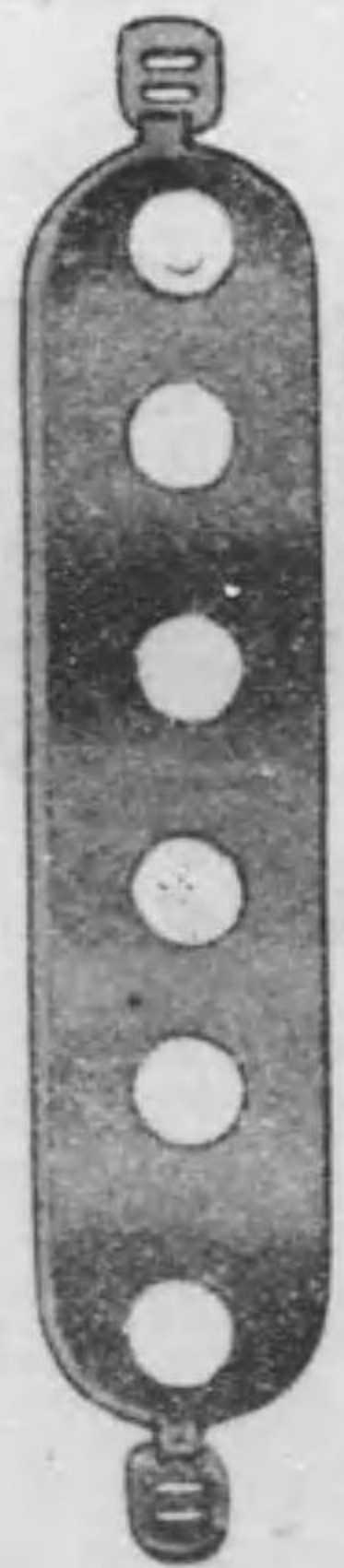
(二) 大人用脊髄治療盤

(3) 小兒用脊髄治療盤、本器は脊髄に基因したる麻痺殊に小兒麻痺の治療に最も適當なり、其他の脊髄炎、腦脊髄腦炎等に使用す。(定價金參圓)



(三) 小兒用脊髄治療盤

(4) 腰部治療盤、こは主として腎臓病、腰神經痛(腰痛)及び麻痺に使用す。(定價金五圓)



(四) 腰部治療盤

(5) 眼病治療盤、結膜炎、トラホーム、虹彩炎、眼瞼麻痺(下垂)、眼精疲勞、疼痛若しくは焮衝等に使用す。(定價金參圓)



(五) 眼病治療盤

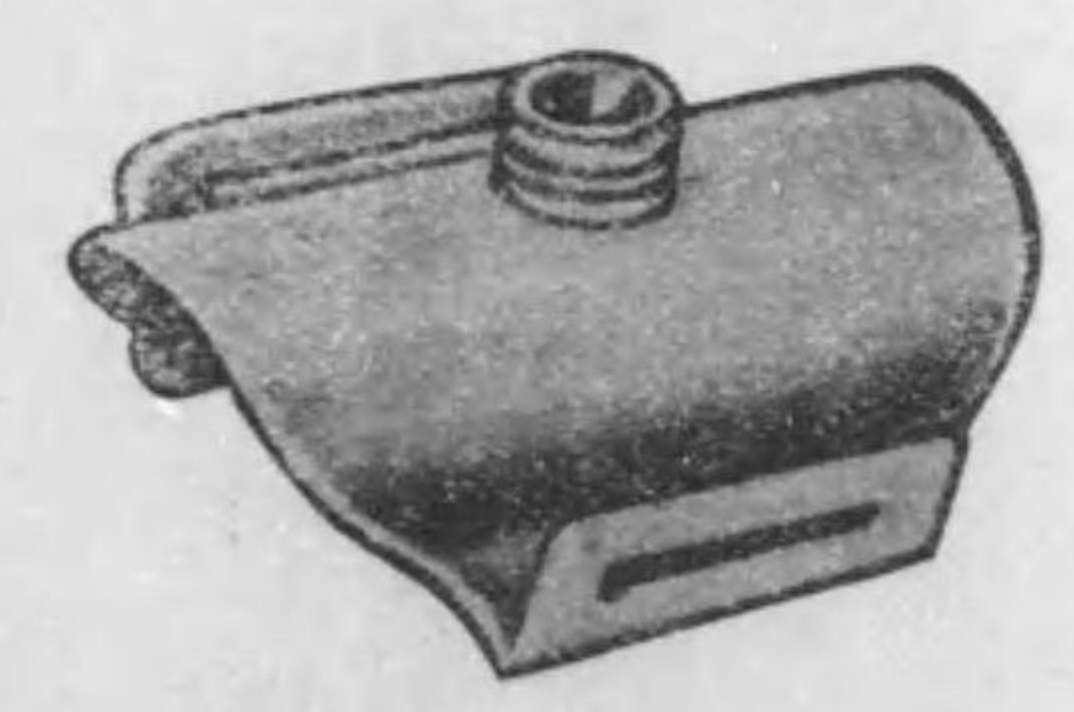
オキシバサー用局部治療盤

(6) 耳病治療盤、加答兒、中耳炎、耳痛重聽等種々の耳病の治療に使用する。(定價金五圓)



(六) 耳病治療盤

(7) 鼻病治療盤、急性慢性各種の加答兒に使用せば粘膜の瘀衝を減じ肥厚を治し血液循環に一大改善を與ふ。



盤療治病鼻 (七)

(定價金貳圓五十錢)

(8) 咽喉治療盤、ヂフテリア、クループ、扁桃腺炎、喉頭炎、咽頭炎、其他の瘀衝及び耳下腺炎に使用し効果を收む。



(八) 咽喉治療盤

(定價金貳圓五十錢)

(9) 口腔治療盤、齒齦の膿瘍、齒根膜炎、齒痛若くは出血、其他種々の口内炎に使用する。

(定價金貳圓五十錢)



(九) 口腔治療盤

オキシパサー用局部治療盤

(10) 特別尿道消息子、尿道加答兒、淋病、攝護腺炎、及び膀胱諸症等殊に其の劇症に使用し卓効を奏す。特に内部に温湯を流通せしめ得可き構造を有し熱濕布の用を兼ねるを以て男子尿道の局所治療には缺く可からざるものなり。(定價金拾貳圓)



(十) 特別尿道消息子

(11) 尿道消息子、尿道、攝護腺及び膀胱の一般慢性の諸症に應用す、又婦人尿道にも使用する事を得、粘膜と接觸して殺菌消炎の目的を履行し得。急性の劇症には特別尿道消息子を使用せらるべし。(定價金四圓)



(十一) 尿道消息子

(12) 婦人用消息子、月經不順、月經痛、白帶下及び各種の子宮病、卵巢炎等の婦人病に使用せらる。(定價金四圓)



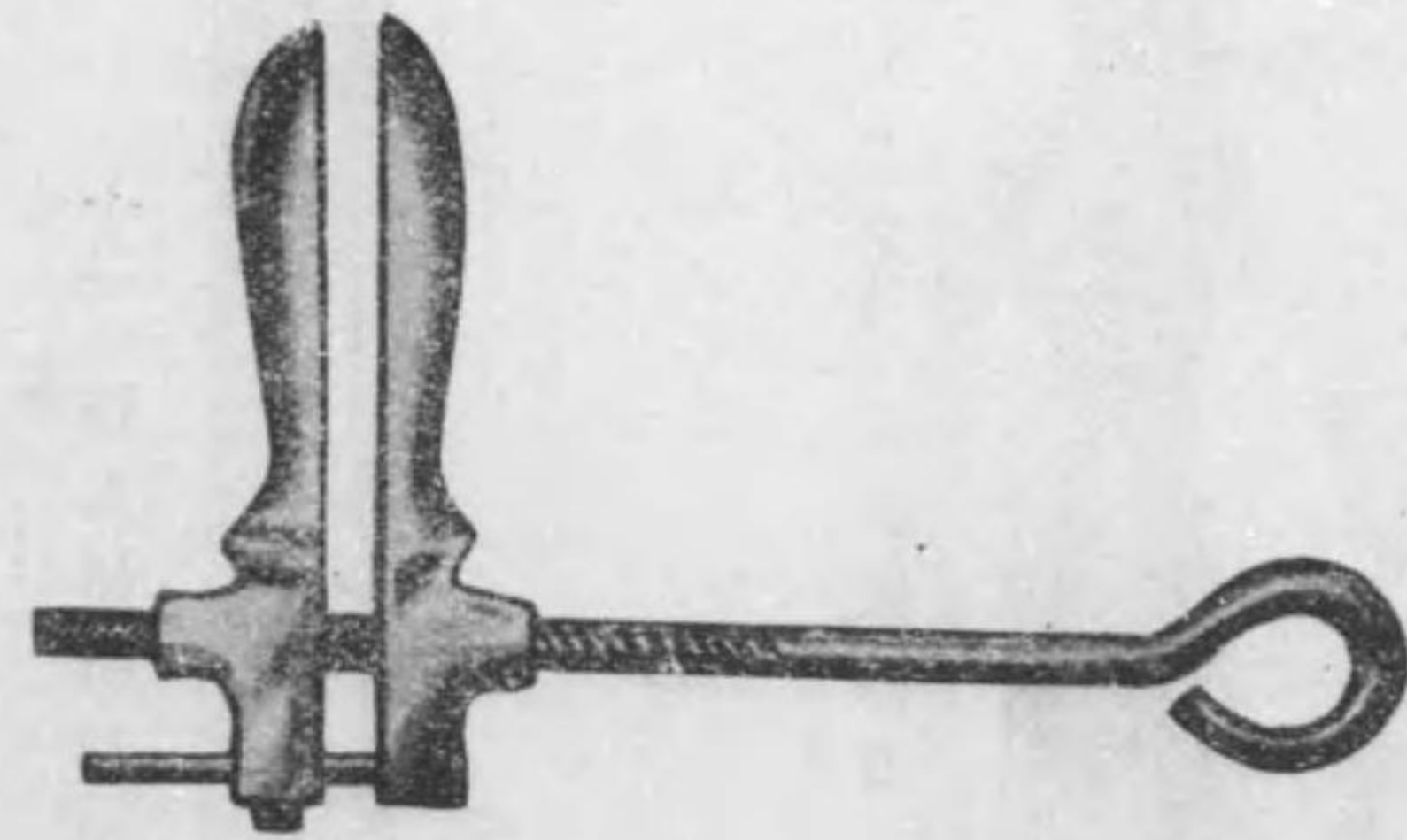
(十二) 婦人用消息子

(13) 直腸擴張器、本器は便秘、痔疾、裂創、化膿症、攝護腺炎、直腸病等に使用するに適當す。(定價金貳圓五十錢)



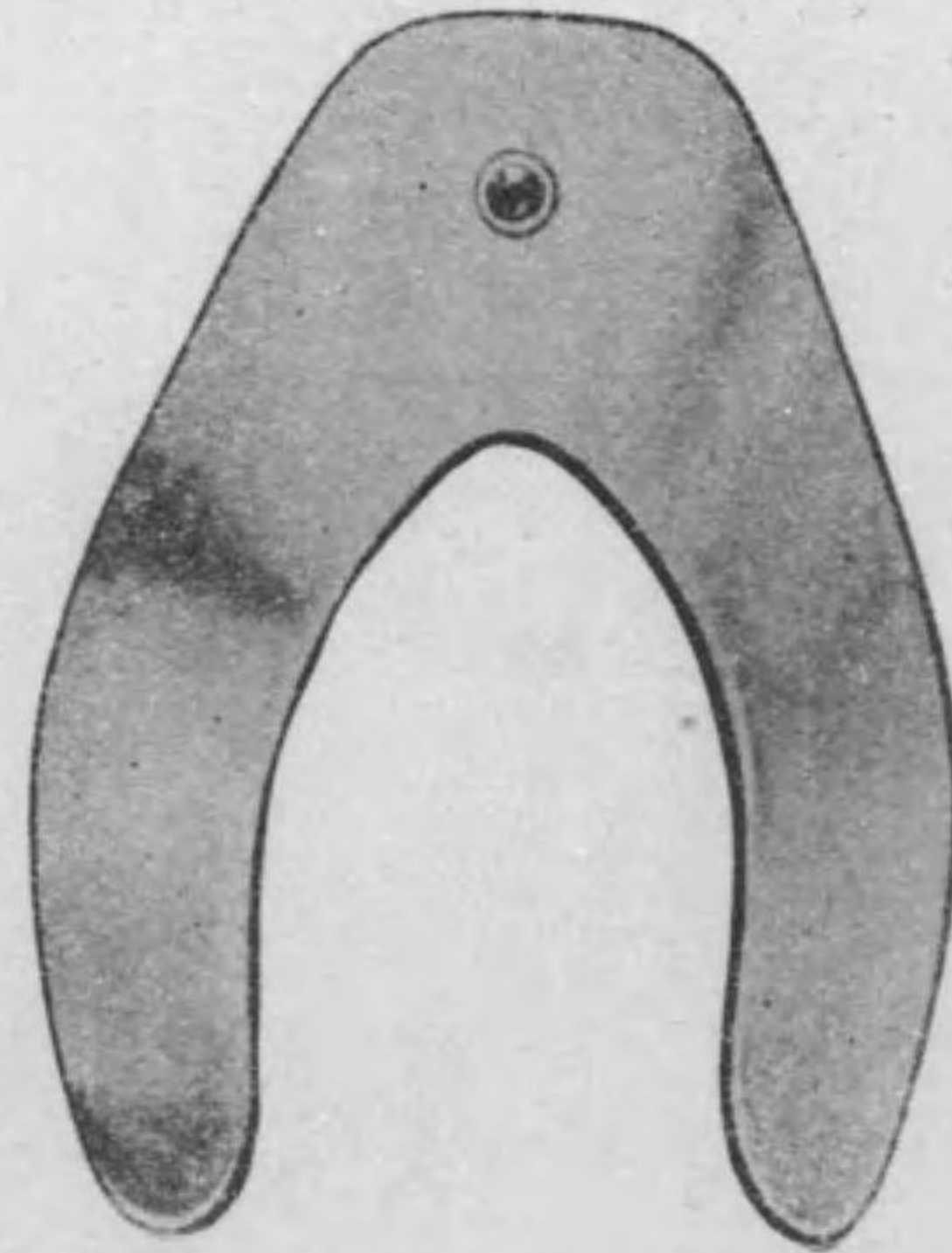
(十三) 直腸擴張器

(14) 特別直腸擴張器、便秘治療の補助として最も卓効を有す、其他頑強なる痔疾、及び種々なる原因に基く狭窄に使用する。
 (定價金七圓)



器張擴腸直別特 (四十)

(15) 睪丸病治療盤、本器は精系靜脈腫、陰囊水腫、睪丸及び副睪丸炎、若くは種々の炎症及び疼痛に使用する。(定價金六圓)



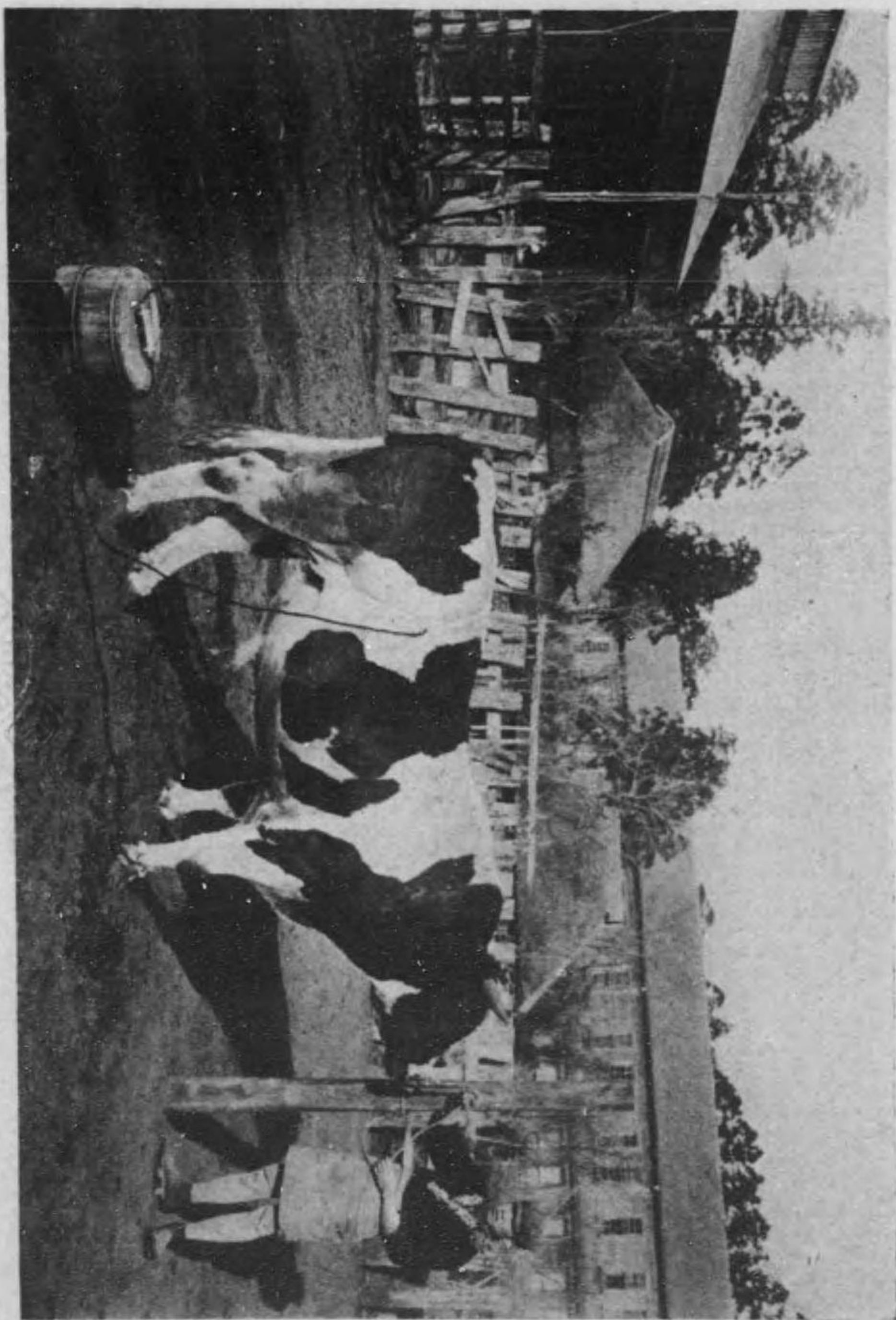
(十五) 睪丸病治療盤

オキシパサー用局部治療盤

◎動物用オキシパサー

「オキシパサー」の原理に基き發明せられたるものにして既に「動物用オキシパサー」として牧畜者の間に知られ多くの動物（牛、馬、羊、豚、犬、其他）に使用して眞に驚歎すべき実績を上げつゝあり。其迅速なる効顯は寧ろ滑稽に値すべく、人類が人體用オキシパサーに依つて治療するよりも猶一層神速なるを見るべく、オキシパサーが如何に優れる治病法なるかを證するに餘りあり。

世の愛獸家、飼畜家、牧場主等は必ず此至便且つ手輕なる本器を常備せらるべきなり。動物の疾病を治療するに自然療法を以てする事の最も當を得たるは何人も首肯せらるゝ所にして新に本器を輸入して普ねく一般に提供せんとする弊社の意又實に此所に存す。

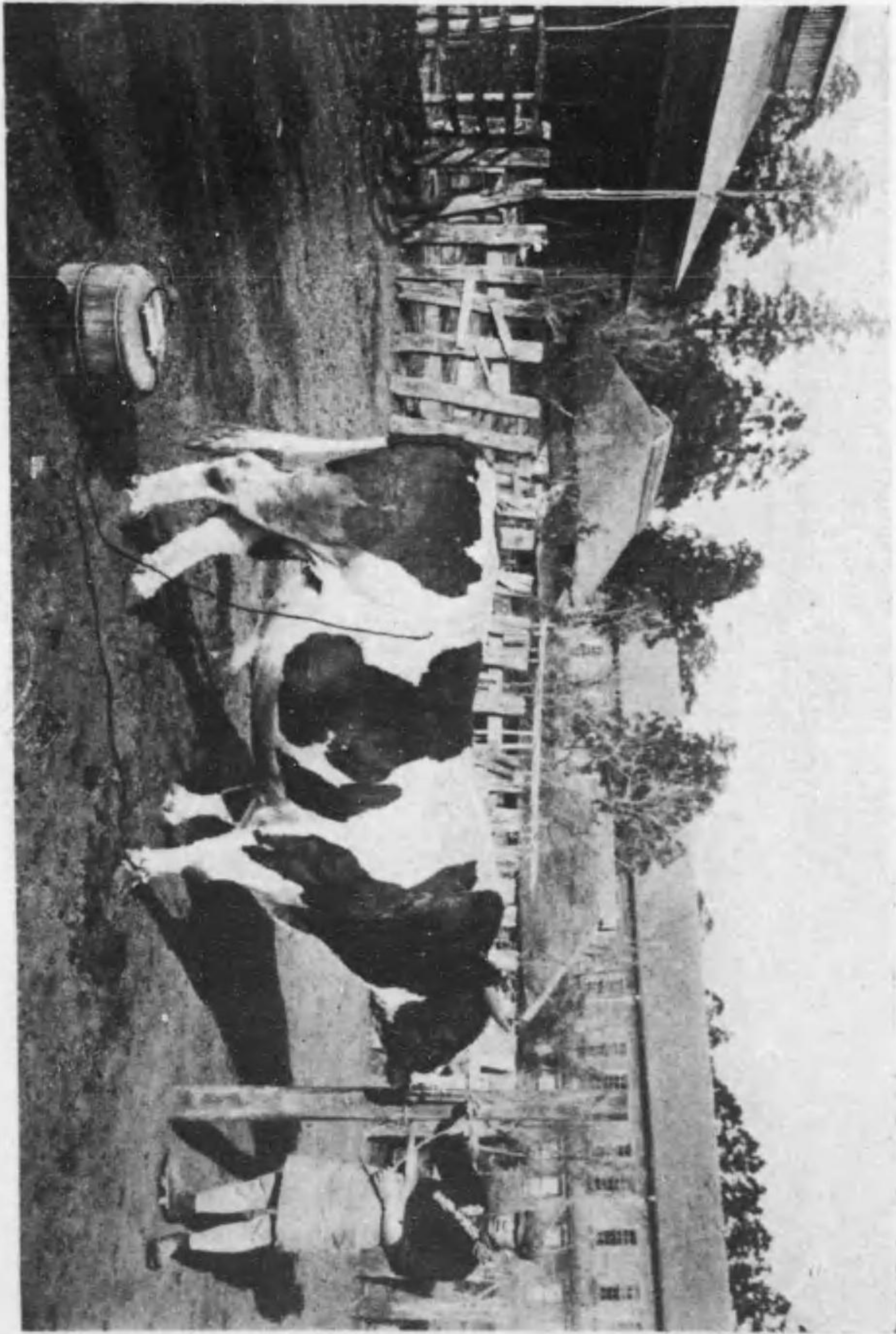


圖るす用使たーサパシキオ動物に治療身全的般一てし際：疫牛に並療治の炎膜腹後産び及病熱スサキテ

◎動物用オキシパサー

「オキシパサー」の原理に基き發明せられたるものにして既に「動物用オキシパサー」として牧畜者の間に知られ多くの動物（牛、馬、羊、豚、犬、其他）に使用して眞に驚歎すべき実績を上げつゝあり。其迅速なる効顯は寧ろ滑稽に値すべく、人類が人體用オキシパサーに依つて治癒するよりも猶一層神速なるを見るべく、オキシパサーが如何に優れる治病法なるかを證するに餘りあり。

世の愛獸家、飼畜家、牧場主等は必ず此至便且つ手輕なる本器を常備せらるべきなり。動物の疾病を治癒するに自然療法を以てする事の最も當を得たるは何人も首肯せらるゝ所にして新に本器を輸入して普ねく一般に提供せんとする弊社の意又實に此所に存す。



圖るす用使たーサバシキオ物動に法療身全的般一てし際に疫牛に並療治の炎膜腹後産び及病熱ンサキチ

オキシパサー附屬品定價表

線	紐 (一組)	金 參 圓
治療圓盤	(一組)	金壹圓五拾錢
綿 ^{パツ} 褥 ^ド	(壹打に付)	金參拾六錢
使用書	(一册)	金壹圓五拾錢

○動物用オキシパサーに就ては別に詳細なる説明書有り。申込次第送呈。
 ○動物用オキシパサー壹個 定價金百拾五圓也。

病名いろいろは分類表

左記の病名表はオキシハサーにて治療せらるべき疾患の梗概なり。「オキシハサーにて治療せざる疾病」と題する章中のものを除外せば殆んど萬病を全治すべきを以て表中の疾患と類似の病魔は同一の療法（輕重によりて多少の變更を要す）によりて退治し得べし。「癒衝」は「炎」に準じて治療すべく、「慢性病」と「急性病」とは使用書の各條を應用すべきが如き其一例なり。

病名いろは分類

い、ろノ部

- (病名) 憂鬱症 イウウツシヤウ
- 咽頭炎 (喉咽炎) イシトウエン
- 咽喉痛 イシコウツウ
- 咽喉癒衝 イシコウキンシヨウ
- 陰囊水腫 インナウスイシュ
- 胃腸病 (消化不良) キチヨウビヤウ
- 遊走腎 イソウジン
- 肋膜炎 ロクマクエン

ろノ部

- (頁數) 九十
- 六十
- 六十
- 六十
- 百十七
- 百二十三
- 百六十二
- 百十六

はノ部

- 微毒 バイドク
- 齒痛 ヘイタク
- 肺癒衝 ハイキンシヨウ
- 肺病 ハイビヤウ
- 敗血膿毒症 ハイケツノウドクシヤウ
- 肺炎 ハイエン
- 肺結核 ハイケツカク
- 膀胱加答兒 ハククワカタル
- 白帶下 ハクタイゲ
- 白腫 ハクシュ
- 破傷風 ハシヨウフ

- 百四十三
- 百七十三
- 七十二
- 九十
- 百四十七
- 七十二
- 九十
- 百二十一
- 百五十二
- 百十七
- 百七十三

左記の病名表はオキシパサーにて治癒せらるべき疾患の梗概なり。「オキシパサーにて治癒せざる疾病」と題する章中のものを除外せば殆んど萬病を全治すべきを以て表中の疾患と類似の病魔は同一の療法（輕重によりて多少の變更を要す）によりて退治し得べし。「焮衝」は「炎」に準じて治療すべく、「慢性病」と「急性病」とは使用書の各條を應用すべきが如き其一例なり。

病名いろは分類

い、ろノ部

(病名)	(頁數)
憂鬱症	九十
咽頭炎 (咽喉炎)	六十
咽喉痛	六十
咽喉焮衝	六十
陰囊水腫	百十七
胃腸病 (消化不良)	百二十三
遊走腎	百六十二
ろノ部	
肋膜炎	百十六

はノ部

微毒	百四十三
齒痛	百七十三
肺焮衝	七十二
肺病	九十
敗血膿毒症	百四十七
肺炎	七十二
肺結核	九十
膀胱加答兒	百二十一
白帶下	百五十二
白腫	百十七
破傷風	百七十三

バラ窒扶斯

にノ部

八十二

日射病

妊娠

へノ部

百五十四
百五十三

瘰癧

扁桃腺炎

扁桃腺腫

便秘

こノ部

糖尿病

百六十一

六十

六十一

九十

百十八

痘瘡

凍傷

ちノ部

六十七

百七十三

腸窒扶斯

窒扶斯熱(神經熱)

腸加答兒

りノ部

六十八

七十七

七十七

流行性感胃

偃麻質斯(急性、慢性)

鱗屑癬

るノ部

七十七

九十九

百四十三

癩癧

百四十三

を、おノ部

悪寒と發熱(マラリヤ熱参照)

瘡

黃疸

黃熱

かノ部

八十三

八十三

百二十六

八十三

加答兒

脚氣

感冒

眼病

肝臟病(黃疸参照)

肝臟麻痺

八十八

百五十六

八十八

百六十一

百二十三

百二十三

疥癬(皮膚病参照)

潰瘍

癰

よノ部

百四十三

百七十三

百五十六

たノ部

帶狀匍行疹

丹毒

膽汁病

膽石

打撲傷

そノ部

百四十三

百四十六

百七十九

百六十四

百五十八

卒中

三

百五十四

二

つノ部

頭痛

百六十七

痛風

百〇七

聾(重聽)

百五十九

ねノ部

尿崩病

百二十

尿閉(閉尿)

百二十

尿毒症

百四十九

なノ部

腦膜炎

百三十三

腦脊髄膜炎

百四十二

腦麻痺

百三十三

腦充血

四

百五十四

らノ部

卵巢病(婦人病参照)

百五十一

癩病

百七十一

のノ部

膿腫

百五十六

おノ部

くノ部

格魯布

六十

霍亂

六十四

關節炎(關節痲質斯)

九十七

やノ部

瘍腫

百五十六

藥劑中毒

百六十

火傷

百七十三

湯傷

百七十三

まノ部

マラリヤ熱(虐)

八十三

麻疹

六十七

慢性病

百七十五

けノ部

痙攣

百五十九

痙攣性顔面神經痛

百〇八

月經痛

百五十二

下痢

六十八

月經(婦人病)

百五十二

月經不調(不順)

百五十二

眩暈

五十二

ふノ部

舞踏病

百五十七

不治病

百八十九

不眠症

百二十七

婦人病

百五十一

腹膜炎

六十八

こノ部

虎列刺

六十八

五

喉頭炎 (咽頭炎)

六十

枯草熱

百六十六

虹彩炎

百六十一

昏睡 (卒中参照)

百五十四

甲状腺腫

百六十三

あノ部

阿片中毒

百七十

さノ部

挫骨神經痛

百〇八

挫傷

百五十八

産褥熱

百五十

ぎノ部

氣管支炎

八十八

局所麻痺

百三十三

痔

九十七

種痘中毒

百七十四

耳痛

百六十

濕疹

百四十三

猩紅熱

六十二

靜脈腫

百十八

吃逆

百六十九

實扶的里亞

五十五

子宮炎

百五十一

しノ部

耳下腺炎

百七十一

神經痛

百〇六

神經炎

百〇九

神經炎 (全身)

百〇九

神經衰弱

百二十九

出血 (鼻口)

百六十八

腎臟結石

百六十九

腎臟炎 (急性)

百十一

腎臟炎 (慢性)

百十三

心臟病

百六十八

腎臟病

百十一

蕁麻疹

百四十三

ひノ部

百日咳

六十

皮膚病

百四十三

貧血症

百三十二

非發疹性熱病

七十七

癩疽

百六十一

もノ部

盲腸炎

八十四

莫爾比涅中毒

百七十

せノ部

精系靜脈腫

九十

小兒虎列刺

六十八

赤痢 (慢性) セキリ
 生殖器衰弱 セイシヨクキススジヤク
 赤痢 (急性) セキリ
 小兒麻痺 (急性) セウニマヒ
 小兒麻痺 (慢性) セウニマヒ
 痲痛 センツウ
 小兒病 セウニビヤウ
 消化不良 セウクワフリヤウ
 攝護腺炎 セツゴ センエン
 脊髄癆 セキズイラク
 脊髄膜炎 セキズイマクエン
 脊髄炎 セキズイエン

六十八
 百三十一
 六十八
 百三十七
 百四十
 百五十八
 五十二
 百二十三
 百二十二
 百七十
 百四十一
 百四十一

脊髄麻痺 セキズイマヒ
 喘息 ゼンソク
 すノ部
 睡眠病 スイミンビヤウ
 水腫 (ウキ) スイシュ
 衰弱 (一般) スジヤク
 筋違ひ スヂガヒ

百三十三
 百五十五
 百七十二
 百十四
 百七十五
 百五十八

米國オキシ。パサー會社日本總代理店

東京市麴町區有藥町一丁目參番地

日本オキシ。パサー會

電話本局三二三一番

振替口座東京貳參八貳壹番

横濱市尾上町五丁目七拾八番地

日本オキシ。パサー會支店

電話特長 九八〇番

振替口座東京貳參八參四番

大正二年四月十九日印刷
大正二年四月廿九日發行

オキシパサー使用書奥附

定價金壹圓五拾錢

著者兼
行者

橫濱市尾上町五丁目七十八
竹原宗太郎

印刷者

東京市京橋區出雲町一番地
秋田貢四

印刷所

東京市京橋區出雲町一番地
新橋堂印刷部



發行所

東京市麴町區有樂町
一丁目三番地

日本オキシパサー商會

電話本局三二三一
番 振替東京二三八二番

350
58



終

